

No. 1 創刊号
2020/07

新潟県生産性本部会報

発行:新潟県生産性本部 会長 森 邦雄

NPC NEWS

明日に向かって



ご挨拶

平素より、新潟県生産性本部の事業運営に、格別なご理解とご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。
昨今の新型コロナウイルス感染症拡大により、会員の皆様におかれましても、様々な影響が生じたことと存じます。
緊急事態宣言が解除され、少しずつ日常を取り戻しつつありますが、新型コロナウイルスの感染は、テレワークやオンラインセミナー会議の普及など働く現場を中心に人々の行動様式を大きく変えようとしています。

そのような中で、持続的に成長していくためには、IT技術の活用や人材育成などにより生産性を更に向上し、高い付加価値を生み出していかなければならないと考えております。

当本部は、皆様方にとってプラスとなる好機に繋げていただけるよう、企業、労使、学識者等の連携のもと、あらゆる階層の教育研修を通じ、創造的、自律的人間の育成に、これまで以上に取り組んでまいります。

また、今後、この会報誌を会員の皆様の情報交換の場としてご活用いただけると幸いです。

contents

- | | | | | |
|----|---|----|--------|------------|
| P1 | ご挨拶 | P3 | お知らせ | 公開研修&書籍の紹介 |
| P2 | 第1回 リレーエッセイ
企業カルチャーがコロナ禍を救う:
今こそ「solidarité(ソリダリテ):相互支援」を | P4 | 会員企業紹介 | 日本精機株式会社 |

(表紙写真:新潟市万代 長谷川撮影)

新潟県生産性本部は7月27日に下記へ移転します!

新潟市中央区新光町7番地2 新潟県商工会館4階 ※新潟県庁近く

電話025-290-7127(予定) FAX025-290-7821(予定)



NIIGATA-KEN PRODUCTIVITY CENTER

<http://www.n-seisanseihonbu.com> ホームページ QRコード



■ 第1回 エッセイ

企業カルチャーがコロナ禍を救う：今こそ「solidarité（ソリダリテ）：相互支援」を

新潟国際情報大学 経営情報学部経営学科 内田 亨

日本大学 経済学部 フィリップ・オルシニ

筑波大学 ビジネスシステム研究科 レミー・マニエ・ワタナベ

筑波大学 ビジネスシステム研究科 キャロライン・ベントン

1. はじめに

コロナ禍で多くの人は、機嫌が悪い、ストレスがたまっていると思う。そのため仕事上、ちょっとしたことで、イライラしてはいないだろうか。遠隔会議で音が小さい・途切れる、画像が見にくい、議論が要領得ない等々。

今、欧州では「solidarité(ソリダリテ)：相互支援」という言葉が頻繁に使用されている。「solidarité」とは、「互いに道徳的に結びついている人々のグループ内での相互の責任と依存の気持ち」「お互いに必要とする人間間の相互依存」である。

そこで本稿では、コロナ禍の中、どのような企業カルチャーがこうした状況を救うか議論してみたい。

我々は、「企業における社員の幸せ」のテーマでビジネスパーソンを対象にインタビュー調査を行った。これは、「人は幸せになるために働いている」という発想からである。現在のコロナ禍では、冒頭で述べたように、決して幸せな状況にはない。そこで我々は、改めてこうした状況下でどのような企業カルチャーが幸せな状況に転換できるか考えてみたい。

図：幸せそうな社員からの回答

幸せそうな社員へのインタビュー内容から導出された回答は、「寛容」「楽観」「思遣(おもいやり)」「正直」「誠実」「友好」「忠誠心」「感謝」「達成感」といった言葉に抽象化される。その中から、今回は、「寛容」について紹介する。なぜなら、コロナ禍において、こうした観念がテーマに挙げた「solidarité(ソリダリテ)：相互支援」に密接に関係するからである(図)。



2

2. 今、組織で求められる観念

寛容の「寛」は、元々「ひろびろとしてゆとりがある」ことであり、「容」は、「聞き入れる、受け入れる」という意味がある。こうしたことを念頭に以下読み続けてほしい。

我々のインタビュー調査において、対象者による仕事上のミスに関する回答では次のようなものがあった。

「基本的にうちの会社はミスには寛容だよ。多分、他社よりもね。でも、それがいいのかどうかという気はするよね。いい面はいいよ。そうしないと逆に隠すじゃない、ミスしても。そうすると余計に悪いほうになってくるから。正直にいうと許されるというけれども、そこで処分されるみたいなことになると何とか隠してやろうみたいになるからね」(50代男性)。

ミスに関して厳しく追及すると「隠蔽」につながりかねないということである。社員やトップの「隠蔽」による企業への負の影響は甚大である。「悪魔はほころびからやってくる」といわれるように、小さな隠蔽から重篤な状況につながる。したがって、寛容な企業カルチャーがあれば、大きなリスクを回避することになる。

コロナ禍では、誰が感染するかわからない。Stay Home を守っていたとしてもたまたま食料品を買いに行ったスーパーマーケットで感染するかもしれない。感染してしまった人が、体調の悪いことを隠して出勤したらどうなるか。後で発覚して問題になった事例は少なくない。

また、次のような回答もあった。

「ミスは周りみんなでカバーしている感じです。一人がミスしたらできる限り周りがカバーする感じです」(20代女性)。

筆者「ミスした人は叱られる？」

「気をつけてねえぐらいです。そんな怒られるっていう事はないです」(同上)。

筆者「ミスが起こった原因の追求はしないの？」

「どうしてこうなったの？みたいなのはありますけど、そんな責めるような言い方じゃなくて再発防止の為に聞く感じです」(同上)。

回答者の会社では、ミスをしたとしても、怒る(筆者解釈:叱る)のではなく、上記のように「再発防止」を心がけているのである。とくに、20代の社員は、叱られることに慣れていないのが実情であろう。それは、今の50代の親世代が叱ることをしてこなかった責任でもある。自分の子どもに叱ることをしないで育て、社員に叱っているのは何か矛盾を感じることはないだろうか。

コロナ禍でもし誰かが感染したら、当人を責めるのではなく、すぐにその原因を突き止め、他の社員が感染しないよう「感染拡大防止」することが求められる。

以上2件のインタビューから、まずは寛容であることが求められる。寛容な企業カルチャーが根付いていれば、ミスの申告、他の社員からのミスのカバー、感染拡大防止のための対策等々、会社は一連のリカバリーショットを打てるのである。

こうしたことを鑑みると、コロナ禍での少々な不便さに対しては、お互いに寛容になり、「solidarité (ソリダリテ) : 相互支援」していくことが得策かもしれない。

今後、他の事柄についても分析を進めていきたい。

謝辞 本研究は、JSPS 科研費 17K03920 (Happiness in Global Companies: Comparative Enablers and Impact on Performance) の助成を受けたものです。

お知らせ(情報提供)

《公開研修について》

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、セミナー等の各種事業について、中止や延期等の対応をとらせていただいておりますが、緊急事態宣言の解除を受け、6月25日の「主任・係長基礎コース」よりスタートいたしました!

安全と安心を最優先し、受付時の検温、換気、アルコール消毒、座席の間隔をあける等の対応を実施しておりますので、是非、ご参加をご検討いただくと幸いです。



《書籍の紹介》

☆適正要員・総額人件費 マネジメント

(株)河合コンサルティング代表取締役 河合 克彦

昨今の日本では、働き方改革や生涯現役的な考え方が推奨されています。働き方・雇用の多様化により、企業の雇用管理・人件費管理の大きく変わっており、この環境変化に対応し、多様化する人的資源のなかでどのような雇用形態・契約形態の組み合わせが最適で総額人件費をどうマネジメントするか。

企業の経営戦略との関連から最適解を考える一助となる一冊です。



MS 日本精機株式会社

代表取締役社長 佐藤 浩一

設立 1946年(昭和21年)12月24日

住所 新潟県長岡市東蔵王

2丁目2-34

電話 0258-24-3311

日本精機さまに

Q&A



日本精機 NS テクニカルセンター

Q1 御社の事業内容について教えてください!

A 当社は、自動車・オートバイ・農建機等に搭載されるメーターの開発・製造(車載計器事業)を主力とし、今後ますます情報が多様化、高度化する中で、安心・安全につながる情報をタイムリーに伝えるような技術開発を進めています。

また、車載計器事業の他に、リモコンやOA・情報操作機器パネル等の開発・製造(EMS・コンポーネント事業)を行っています。この事業領域においては、EV化が加速するにつれ、車に使用されている様々な部品において基板実装(車載EMS)ニーズが高まることが予測されているので、車載計器事業で培った技術を駆使した、車載EMSビジネスにも注力しています。

Q2 御社が一番力を入れていることについて教えてください!

A 車載計器事業の製品の一部に、世界ナンバーワンシェアの「ヘッドアップディスプレイ(HUD)」があります。HUDは、ドライバーが前方視線のまま、フロントウィンドウに映し出された速度やナビゲーション表示等の様々な情報を、より早く確実に確認できるシステムです。ドライバーが前方から視線を移動することなく、運転に必要な情報を得られるようにすることで、事故の無い社会に貢献できるものと考えています。

今後更なる技術進化により視認性を改善するのはもちろんのこと、小型化・軽量化・ローコスト化により搭載性を向上させ、世の中へ幅広く普及できるように開発を進めます。



HUD イメージ図

Q3 御社の企業理念や行動指針について教えてください!

A 当社は、「顧客の立場に立って、価値の高い製品を提供することにより、社会の繁栄に貢献する」ことを経営理念とし、「質実簡迅(本質的なことを現実に基づきシンプルに素早く実行すること)」を行動指針とした企業文化を築き上げ、芯から強い会社となることを目指しています。

Q4 新型コロナウイルス感染拡大を受け、御社からメッセージをお願いします!

A コロナ禍による未曾有の影響が、世界・日本・新潟に及んでおります。お亡くなりになられた皆さまに、謹んでお悔やみを申し上げます。また、感染拡大防止にご尽力されている皆さまに、深く感謝申し上げます。当社はこの度、社内備蓄のあった感染症対策用品(防護服、マスク等)を、新潟県や医療機関等へ寄付すると共に、金型・成形技術のノウハウと設備を利用して、飛沫防護マスク1,000セットを生産し、医療機関を中心に、感染拡大防止やライフライン維持の現場においてご尽力されている方へ無償提供させて頂きました。

刻々と状況が変化中、一日も早く新型コロナウイルスの感染拡大が終息し、復興に向けた活動が進展することを願いつつ、皆さまと力を合わせ、この難局を乗り越えられるよう尽力してまいります。



飛沫防護マスク
(フェイスシールド)



この会報を通して、会員の皆様をご紹介させていただきます。企業団体様のPRの場としてご活用いただけると幸いです。このたび、ご協力いただきました日本精機様ありがとうございました。

新潟県生産性本部では、会員を募集しています。お気軽にお問い合わせください。

制作・発行 新潟県生産性本部 会長 森 邦雄 編集等担当 関谷・長谷川
mail info@n-seisanseihonbu.com